



Newsletter No.18

The Japanese Association for English Studies

日本英語文化学会

「会報」通巻 第18号 発行日：2024年11月14日

### (1) 会長挨拶

#### 学び合いから生まれる力

会員の皆様には、いつも温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。お陰様で6月に第156回研究発表会を、8月に第27回全国大会を無事に開催することができました。「第〇回」といった数字を見るたびに、先達から受け継がれてきた学び合いの場をこれからも大切に守り続けていく意義を実感します。

台風や豪雨の影響で一時実施が危ぶまれましたが、8月30日(金)、日本大学通信教育部(東京都千代田区九段南4-8-28)の51講堂・52講堂において第27回全国大会が無事に開催されました。研究発表のセッションでは、英語教育に関する発表が2本、英文学に関する発表が1本行われました。加えて、この大会では新しい試みとしてワークショップが企画されました。「英文学研究と英語教育」および「English-Medium Instruction (EMI)の有用性と課題」という2つの異なるテーマのもと、それぞれファシリテーターを中心にテーマに関心のある参加者が集まり、自由に活発な議論の場となりました。ワークショップについては、本ニューズレターに別途報告文がありますので、そちらもご覧ください。

本大会を開催するにあたり、会場校責任者の川嶋正士氏には、準備段階から当日の会場運営に至るまで多大なるご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。また、当日参加して下さった会員・賛助会員の皆様、研究発表とその司会、ワークショップの企画・進行をして下さった会員の皆様、大会運営委員の皆様にも深謝いたします。

昨年同様、今年の全国大会でも学会として正式に懇親会の機会を設けることができ、発表セッションやワークショップの時間内で収まらなかった議論を続けたり、会

員・賛助会員間の親交を深めたりすることができたのも、本大会の大きな収穫の一部であったと感じています。この幸せな「あたりまえ」がずっと続くことを願ってやみません。

最後に、これからも、会員同士の学び合いから生まれる力を糧に、皆様と共に知を磨き、日本英語文化学会の新たなステージに進んでいけることを楽しみにしております。

日本英語文化学会会長  
中井延美

### (2) 全国大会報告

日本英語文化学会第27回全国大会 (The 27th National Conference of the Japanese Association for English Studies)

開催日：2024年8月30日(金) 11:00~16:35

会場：日本大学通信教育部(〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28) 51講堂・52講堂

#### プログラム

開会式 11:00 (51講堂)

総合司会 市川 仁(中央学院大学)

開会のことば

会長挨拶 中井延美(明海大学)

研究発表Ⅰ 11:15~11:55 (51講堂)

タイトル: Creating a Speed Reading Course for High Schools and Universities in Japan

発表者: Chang Tekka (Meikai University)

司会: Ayako Nogami (Dokkyo University)

研究発表Ⅱ 13:00~13:40 (51講堂)

タイトル: 「エミリ・ディキンソンの『花』のイメージ」

発表者: 佐藤 江里子(中央学院大学)

司会: 落合 真裕(十文字学園女子大学)

研究発表Ⅲ 13:45~14:25 (51講堂)

タイトル: 「言語ストラテジーとしてのポライトネス要素と英語教育」

発表者: 中井 延美(明海大学)

司会: 三幣 友行(東京都立大学)

ワークショップ 14:30~15:30

テーマ1: 英文学研究と英語教育 (51講堂)

ファシリテーター: 大木 富(神奈川工科大学)

(概要)

大学における英語教育に関しては、「実用的な英語力」や「英語によるコミュニケーション能力」の向上を重視する方向にあることは周知であるが、高校における日本

語教育においても、現在、新しい学習指導要領のもとに、文学作品（古典・漢文を含め）を読む量を減らし、半分以上は法律や契約書の読解等を通して「実用的な国語力」や「役立つ国語力」と言われるものの養成・育成に力点が置かれている。このような日本における言語教育全体の流れの中で、英文学研究者が大学で英語教育に関わる場合、どのように向き合っていくのか。コミュニケーション能力に重きを置いた教育の結果、日常生活等の平易な内容に関して、外国人講師と平明な英語を用いて話すことのできる学生は増えているようには思われるものの、若干複雑な英文読解となると、あまりできない学生が多いのも確かである。英語教育における、英文学研究の大前提である「テキストの精読」や「テキストを深く読む」ということの意義、実際の授業において文学研究から得られた知見等の果たしうる役割はなんであるのか、あるいは、その知見をどのようにいかしていくのか。一般の英語学校と大学の英語の授業の相違点はどこにあるのか。ファシリテーターによる上記の問題提起のもとに、出版関係者を含め、授業の現状、知見の活かし方、また文学を教材とすることの是非等に関して、個別の事例の紹介も含め、活発な議論が展開された。

報告者：大木 富（神奈川工科大学）

テーマ2：English-Medium Instruction (EMI)の  
有用性と課題（52 講堂）  
ファシリテーター：渡辺 宥泰（法政大学）  
（概要）

ファシリテーターより、欧州の大学で EMI が増加した背景や教員にとっての EMI の利点、日本の中等・高等教育における EMI の位置づけに関して、その概要の説明が行われた後、“World Englishes”をテーマにして、学生役となったフロアも積極的に参加し、実際の授業さながらの EMI の模擬授業が行われた。その際、「ニュージーランドの公用語」が「英語とマオリ語」の他に3つ目として「ニュージーランド手話」があるとの指摘があったが、手話を公用語とすることは、ダイバーシティ&インクルージョンの見地からもその先進性が高く評価される。続いて、実生活でほとんど英語を使用しない日本の言語環境で、英語を必修科目に指定していることの是非を中心に、旧制中学以降、教育対象が全国民に広がったことが英語力の低下に繋がったとする見解（川嶋）や、出版社からは学習意欲の二極化への言及（成美堂：宍戸）、ビジネスマンも留学すると英語との接触が増えるためコミュニケーション力が高まるが、「文法訳読法による学習経験が基盤となっているはず」（川嶋）との指摘、また、少なくとも 20 年前のニュージーランドの小学校の授業が「実質的に総合学習のひとつのみであった\*」（渡辺）ことに関する「授業運営とその準備に必要な教員の負担は想像に難くなく、教員間の能力差が問題となる」（中井）との指摘など、活発な議論が展開し、示唆に富む貴重な

学びの場となった。（敬称略）

-----

\*ただしニュージーランドの Ministry of Education（教育省）は、English, Arts など 8 分野を学習領域に指定している。

報告者：水野 晶子（拓殖大学）

総会 15:40～16:30

司会：中井延美（明海大学）、渡辺宥泰（法政大学）、三幣友行（東京都市大学）

閉会式 16:30～16:35

閉会のことば 副会長 渡辺宥泰（法政大学）

写真撮影 16:35～16:50

懇親会 18:00～

### （3）研究発表会報告

#### 第 155 回 3 月研究発表会

日時：2024 年 3 月 2 日（土）16:00～17:25

会場：明海大学浦安キャンパス講義棟 2 階 2201 教室

研究発表

第 1 発表 16:00～16:40

タイトル：American and British Accents in New Zealand Films

発表者：Yutai Watanabe (Hosei University)

司会：Masashi Kawashima (Nihon University)

第 2 発表 16:45～17:25

タイトル：「第二言語をめぐる言語態度」

発表者：渡辺英依美（法政大学）

司会：三幣友行（東京都市大学）

#### 第 156 回 6 月研究発表会

日時：2024 年 6 月 1 日（土）

会場：明海大学浦安キャンパス講義棟 2 階 2201 教室

研究発表

第 1 発表 16:00～16:40

タイトル：「戦後の作家たちの見た＜アメリカ＞」

発表者：本間章郎（法政大学）

司会：河野智子（神奈川工科大学）

第 2 発表 16:45～17:25

タイトル：A Needs Analysis for English Literature Classes in Japan

発表者：Chang Tekka (Meikai University)

司会：Yutai Watanabe (Hosei University)

### （4）理事会・総会関連事項

日本英語文化学会 第 27 回全国大会 総会 審議・報

告事項 2024年8月30日(金)

明海大学 管理研究棟 1718 中井延美研究室

【報告事項】(案内・確認を含む)

A. 12月例会について(中井会長)

(1) 12月14日(土)

会場: 明海大学浦安キャンパス

(2) 発表者の募集: 11月11日(月)まで

B. 会計報告(会計/事務局 高橋理事代理で三幣理事より)

(1) 決算報告 (2) 会費納入状況 (3) 会費納入のお願い

C. 『異文化の諸相』について(学会誌編集長 岩崎理事代理で三幣理事より)

(1) 投稿締め切り: 10月4日

### (5) 会員の新刊書案内

本学会員による新刊書をご案内しますので、学会員で研究書等を出版された方は編集部までお知らせください。

### (6) 機関誌等に関して

I) 「英語文化エッセイ」お知らせ

文学、文化、言語学、英語教育の各専門分野に関する〈研究ノート〉、〈書評〉、〈その他〉の投稿を幅広く求めています。

『英語文化エッセイ』投稿規定

和文2,000字、欧文800語程度。A4用紙、Word標準設定。

応募方法: メール (Word形式の添付ファイル)、また「メモ帳」等でテキストファイルに変換した原稿も添付してください。

応募締切: 2024年10月31日

なお、掲載の採否、及びコラム等のレイアウトは編集部にご一任願います。

応募先: 日本英語文化学会『英語文化エッセイ』編集部編集長 清水純子

〒181-0005 東京都三鷹市中原2-25-25 / Tel: 0422-41-0029 / e-mail: jesse@jcom.zaq.ne.jp

II.) 『異文化の諸相』投稿募集のお知らせ

2025年2月発行予定の『異文化の諸相』第45号の原稿提出締切日は2024年10月4日です。投稿を希望される方は学会ホームページの『異文化の諸相』投稿規定(2023年6月8日改訂)をよくお読みください。

原稿提出先: 日本英語文化学会学会誌編集委員長  
[jsce.submission@gmail.com](mailto:jsce.submission@gmail.com)

編集: 日本英語文化学会/ 編集部: 河野智子 大木富 /

発行人: 中井延美

発行所: 〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目